

岡崎市民病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 院内 AED*解析症例の傾向からみた生体情報モニタ装着への検討

[研究責任者] 医療技術局臨床工学技室 永井 麻優

[研究の背景]

心停止は、基礎疾患の悪化、電解質の異常、薬の影響など様々な原因で発生します。特に心臓の疾患や重い感染症、呼吸不全がある人では、心電図の変化や血圧の不安定になるなど心停止の前にサインが出されていることが知られています。院内で起こる突然の心停止の予後は悪く、迅速な蘇生対応に加え、心停止に至る前のサインを捉える予防的介入が不可欠です。現在の予防的介入は、医師の指示もしくは看護師判断の臨床経験に基づく判断が中心となっています。既存の AED 使用データと直近の 12 誘導心電図所見を照合して、予後不良つながるリスク因子を特定することで、心電図のモニタリング**基準を科学的に再評価し、多職種連携による患者安全の向上につなげたいと考えています。

*AED (自動体外式除細動器：Automated External Defibrillator)

心臓のけいれんによってポンプ機能が失われた状態(心室細動)の心臓に電気ショックを与えて、正常なリズムを戻すための医療機器。

**心電図のモニタリング

心臓の電気活動を連続的に計測し、波形としてモニタ画面に表示するシステム。主に不整脈の監視が目的で、心拍数や心電図波形の変化を長時間監視することで、異常の早期発見と対応に役立ちます。

[研究の目的]

院内 AED 使用症例の診療記録を解析し、心停止前の心電図異常所見（QT 延長、異常 Q 波など）とモニタリング体制の関連を明確にします。高リスク患者のモニタリング適応基準の課題を洗い出し、院内で起きる急変時の予防体制を強化することを目的とします。

[研究の方法]

後方視的観察研究

●対象となる患者さん

2022 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までに当院で AED が使用された全入院患者

●研究期間：臨床研究審査委員会承認日から西暦 2027 年 6 月 30 日

●利用する検体、カルテ情報

カルテ情報：

患者背景（年齢、性別）、臨床経過（AED 使用時の状況、モニタ装着状況、発見契機）、

心電図所見（直近 12 誘導心電図における QT 延長ならびに QT 時間、ST/T 異常、異常 Q 波などの異常所見の有無および件数）、転帰（AED 解析結果、最終転帰）

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者である永井が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

岡崎市民病院

444-8553 愛知県岡崎市高隆寺町字五所合 3 番地 1

医療技術局臨床工学技室 永井 麻優

電話 0564-21-8111 FAX 0564-25-2913

内線（7521）